

福 井 県 医 師 会

だまり

第543号 平成18年(2006)9月



表紙写真説明：螺旋階段

開高健が常宿にしていたというホーチミン市のマジェスティックホテル。私の好きな作家沢木耕太郎もここに泊まったりしている。1925年の開業で、フランス統治下に建てられたこのホテルは重厚で風格がある。特に正面玄関を入ってつきあたりのこの螺旋階段は80年経った今でも十分に美しい。

鯖江市 今野 利男

勝山市医師会長に就任して

勝山市医師会長 竹 下 治 生



平成18年4月21日、第48回勝山市医師会総会におきまして、新しく勝山市医師会長に推挙されました。医師会長としてのリーダーシップには、ビジョンと資質が問われますのではなはだ問題がありますが、しかし、なんとかその責務を果たしたいと存じます。

現在業務として、医師会活動の他に、市の事業としての介護保険運営協議会委員、地域包括支援センター運営協議会委員、地域密着型サービス運営委員、保険対策推進協議会委員、障害児就学指導委員、防災会議委員等々に参加しているところです。

最近の日医ニュース（No.1072、2006.5.5）の書評を読んでいて、鈴木 厚著「世界を感動させた日本の医師」が載っていましたので、早速買って読んでみました。確かに彼らは題名どおりの医師でした。筆者は、世界を感動させた日本の医師として4人を取り上げています。

1人目は、浦上の聖人：永井 隆氏は、長崎の原爆で自ら負傷しながら、多くの被曝者を助け、長崎の復興のために自らを犠牲にした医師であります。

2人目は、世界の荻野：荻野久作氏は、受胎の神祕「排卵と月経」の謎を解明して、“オギノ式避妊法”で世界的名声を得ましたが、生涯、新潟市民のために働き続けた医師でした。

3人目は富山のシュヴァイツァー：荻野昇氏は、逆境のなかで“イタイイタイ病”の原因を解明し、公害患者の救済に立ち向かった医師であります。

4人目は、世界生命賞受賞：菊田 昇氏は、赤ちゃんの生命を守るため、行政と闘い、裁

判では負けましたが、彼の行動は、多くの日本人の賛同を得て、彼の信念が法律を変え、そして数百人の赤ちゃんの命を救い、世界生命賞を受賞しています。

私たちは、歴史から人生を学び、多くの先輩医師から、医師としての行き方を学んできました。しかし、ここに登場する4人の医師に共通することは、彼らが臨床医であり、臨床医であるがゆえに患者の苦しみを知り、患者のために全てを尽くした事であります。医師としての生き方、真理を追究する学者としての生き方、そして、日本人が失いかけている人間としての真の生き方を教えてくれます。

ところで構造改革、規制緩和が叫ばれて久しいのですが、経済は混迷し、少子高齢化は一層進展する中、社会保障に関わる諸施策は後退の一途を辿り、われわれ医療界を取り巻く環境は年毎に厳しさを増してきています。本年4月の診療報酬の改定は、過去最大の引き下げで、3.16%のマイナス改定になり、我々診療機関としては大きな痛手です。また6月14日医療制度改革関連法案が、衆・参議院本会議で可決・成立しました。高齢者医療確保のもと、5年ごとの医療費適正化目標を策定するという名目のもと、さらに医療情勢は悪化すると思われます。

しかし、地域医療を担う我々としては、勝山市民が安心して医療が受けられるように努めると共に市民の健康管理、疾病予防にも努めなければならないと思われます。

今後、行政当局、関係機関の協力を賜り、勝山市医師会の事業を推進したいと存じますので宜しくお願い申し上げます。